

うことがありますので、後悔しないため、早急かつ計画的な対応が求められるところです。

災害からの教訓を蓄積し、科学的な将来予測を隅々まで共有し、どういった優先順位をもって適応していくか、を考える時が来ていると思います。

自分自身で、気候変動を「やばいと感じること」、災害が起これば「早く逃げること」、そして「危険な場所にはなるべく住まないこと」を普段から考えるように認識を深めていくことが大切です。

2019年度環境省補助金事業からのお知らせ

大津市地球温暖化防止活動推進センター（大津市センター）では、環境省二酸化炭素排出抑制対策補助金事業を実施しています。2019年度事業として採択された中から2つの事業の概要をお知らせします。

【その1 エコカーの普及促進講座】

一般にエコカーと呼ばれるのはCO₂の排出が少なく（または走行時排出しない）燃費のよい環境負荷が小さい車をいい、ハイブリッド車（HV）、電気自動車（EV）、燃料電池車（FCV）を含みます。ただ最近、ハイブリッド車の中でも家庭などのコンセントから充電できる電気自動車の機能が加わったプラグインハイブリッド車（PHV）のみを含むようになってきました（狭義のエコカー）。ハイブリッド車も含めこれらの車は次世代自動車と呼ばれることもあります。

では日本で次世代自動車はどれくらい普及しているのでしょうか。国の調査によると、2017年度の新車（乗用車）販売台数の実績について、次世代自動車は36.7%で、そのうちハイブリッド車が31.7%を占めており、電気自動車・燃料電池車・プラグインハイブリッド車は合計しても1.35%に過ぎません（実台数で6万台弱）。しかしながら2030年には20~30%を普及目標としています。温暖化を防ぐため、エコカーの普及促進対策（充電インフラ整備や補助金・税優遇などの充実）が期待されています。

大津市センターでは、エコカーへの理解を深めるために次の講座を開催します。

「これからの、エコな車の選び方」～座学と試乗体験～

日時：11月16日（土） 14時～16時

会場：滋賀トヨペットウエルコム栗東

内容：①座学 電気自動車、燃料電池車の特徴等の解説

②エコカー見学（しくみの解説）

③エコカー試乗体験

参加費：無料

定員：20人（申込は10月15日から先着順、試乗には運転免許証持参）

【その2 宅配「1回で受け取ろう！」キャンペーン】

留守などのために宅配の荷物が1回で受け取れず再配達になる比率が約15%になる（国の調査）といわれます。再配達になればそれだけCO₂の排出が増えます。荷物を送る側も受取る側も一度で済ませるように気配りすることで温暖化防止に役立つことができます。

大津市センターでは、お歳暮やクリスマスの贈り物で宅配が増える季節を迎え、次のとおりキャンペーンを実施します。

キャンペーン実施期間：令和元年10月～12月の間

キャンペーン記念事業：

開催日時：11月24日（日）12時～15時

場所：イオンスタイル大津京4階イベントコーナー

内容：①なぜ、キャンペーンが必要か～温暖化と気候変動の現状（パネル展示）

②宅配「1回で受け取る」ための工夫（会場で提案）

③お楽しみミニライブ（ギター演奏・歌とトーク）

問い合わせ：大津市地球温暖化防止活動推進センター Tel.077-526-7545



2019年度これまでの主な事業

おおつエコフェスタ 2019 盛大に開催

7月28日（日）、ピアザ淡海3階大会議室において「おおつエコフェスタ 2019」を開催しました。1,300人を超える来場者で会場は終始賑やかでした。

一昨年から夏休みのこの時期を選んで、大勢の子どもたちと保護者が集い環境を学ぶ催しですが、去年は天候不順のため中止になっただけに今年への期待は一段と高まり、環境を学習するブース、グルメブースの賑わいをはじめ、ダンス・ハルーンアート・音入り紙芝居などのステージショー、そしてシールラリーの趣向も評判がよく、子どもたちは熱心に学習し、そして楽しむことができた一日でした。



おおつ市民環境塾 2019（前期）3講座を開講

講座1「菜種油をつくろう」

5月25日（土）雄琴の菜の花畑で開催しました。種の出来た菜の花を刈取り、ブルーシートの上で踏みつけて種をだします。種から油を搾ってちょっと味見もしてみました。



講座2「エコな移動のすすめ」

6月29日（土）、開催しました。具体的な事例をまじえて未来の環境に優れた「まちづくり」につながる興味深いお話がありました。大津市でも自動運転の実証実験があったと紹介されました。高齢者や観光客の足として実用化されるでしょうか。



講座3「CO₂削減 家庭で出来ること」

7月27日（土）、開催しました。日本が「パリ協定」で約束した温暖化防止対策を実現するには2030年に家庭から排出されるCO₂の量を40%（2013年比）削減しなければなりません。どうすれば可能か。「明快！家庭の省エネ簡易診断表」で項目毎の点数チェックを行ない、その実現可能性を確かめました。

